

近畿・九州共闘交流会開催 水平社発祥の地、京都で

部落解放地方共闘近畿ブロック・九州ブロック第26回交流会が9月7日から8日にかけて、京都ロイヤルホテル(京都市)でひらかれ、和歌山県共闘会議から田上武・議長をはじめ9人が参加し、近畿ブロックから参加した74人、九州ブロック29人の仲間と交流を深めた。

1日目の全体交流会では、山根健二・大阪府民共闘事務局次長の基調提案に基づき、大阪、福岡、兵庫県共闘からそれぞれ活動報告がおこなわれた。大阪府



あいさつする田上県共闘議長

共闘からは、大阪府市の補助金打ち切りで存続の危機に直面している大阪人権博物館(リバティおおさか)の存続に向けたとりくみが報告された。7月21日、学者、文化人、市民団体など

多くの賛同人による「リバティおおさかの灯を消すな全国ネット」(略称・リバティネット)の設立集会在ひらかれ、多様な人権問題に対応しているリバティの灯を消すわけにいかない、補助金廃止の撤回を求め、署名活動、カンパ活動、賛同人拡大などにとりくむことが確認されたという。各地域共闘でもリバティおおさかの存続に向けた署名活動にとりくんでほしいとの訴えがあり、各地域共闘でも署名活動に協力していくことが確認された。また、

大阪市民交流センターが全廃される方針も打ち出されていることについて、識字教室の存続にかかわる問題でもあるので、行政へのはたらきかけを強めていきたいとの決意がのべられた。

意見交換のあと「京都の部落解放運動の現状と課題」と題し、宮崎茂・京都府連書記次長が府内の同盟支部が抱える課題について地元報告をおこなった。少数点の部落が多く組織建設が課題であること、同盟員の高齢化、隣保館の老朽化、基礎学力や就労の課題、改良住宅の居住者の50%をこえる高齢化率など、全国の解放同盟が抱える課題と共通するものが多かった。さらに、京都市内の小学校

存在していた長欠・不就学、学力・高校進学における大きな格差など、部落問題が提起する教育課題として教育行政に迫った。結果、進学奨励事業や教育環境の整備など大きな前進を見られた。とくに、それまで部落

主張

子ども会活動の役割 全水90周年を迎えるにあたり

全国水平社が結成されて90年を迎える今年、和歌山県では「西川県議差別事件」糾弾闘争から60年を迎える。この闘いは、被差別部落の実態をあきらかにし、その差別実態を放置してきた行政の責任を明確にさせる闘いであった。京都の「オール・ロマンス」につづくこの闘いは、それまでの同和行政に大きな影響を及ぼし、その後の「同和対策審議会」答申、「同和対策事業特別措置法」制定にいたる闘いであった。

なかで続けられていた子ども会活動を行政の責任において教育課題を解決する施策として制度化されて今日に至っている。子ども会活動は、多くの先達に導かれ、支えらながら歩んできた。高校進学率

内容も変化してきた。子ども会でも育った青年たちが差別的環境の整備の中心的役割を果たし、地域の環境改善に多くの成果をあげることができた。反面、子ども達の学力にまだまだ多くの課題が残され、子ども会が

に大きな格差が存在し、格差是正のとりくみも子ども会の重要な柱であった。その後「同和対策事業特別措置法」が制定され、子ども達の教育環境や生活環境の整備等対策事業がすすめるなか、子ども会活動の

教育の補完する活動もおこなってきいている。部落解放運動のなかで子ども会の果たす役割は非常に大きなものがある。水平社結成のあとすぐに少年少女水水平社が結成され、学校内での厳しい差別と闘った歴史がある。



高瀬川周辺をフィールドワーク

でおこった差別事件の報告では、教育現場ということもあり、とりくみの反省もふまえ、人権侵害に対応できる体制を行政に求めていくと決意をのべた。

狭山事件を 考えよう

私が狭山の闘いを知ったのは18歳のときであった。夜行バスに乗って和歌山を出発し明治公園でおこなわれた狭山中央集会に初めて参加し、公園に集まった3万人の参加者の多さに驚きながら話を聞いた。そこで聞いた話は疑問だらけで、「なぜ警察は石川さんを犯人にでっちあげたのか。なぜ再審がおこなわれないのか」など、集会に参加して初めて狭山事件を知った私には驚くことばかりだった。

各支部大会ひろく

私は、この集会参加をきっかけに解放運動をすることなり、そのことから狭山闘争にたいしては思い入れがある。当時、那賀支部青年部で活動をともし、いた前田くんと一緒に支部事務所宮本修作・書記長(県連書記次長)に狭山事件についての学習会をした。

岩出支部の定期大会が9月13日、曾屋教育集会所でひらかれた。新役員は次のとおり。

今、三者協議が開始され、これまでない絶好のチャンスがきていると思う。これまでの90点近い証拠が示されたことをふまえ、これからも重要な証拠を開示させるとりくみをつけ、事実調べ・再審開始を目ざしこれからもとりくんでいきたい。久保 智弘

文化の窓

「原発を拒み続けた和歌山の記録」

今年7月大飯原子力発電所(福井県)が再稼働された。関西電力の原子力発電所は日本海沿岸に集中して建設されている。しかし、1970年代豊かな自然に恵まれた和歌山県の4町5カ所に原発建設の計画があった。関西電力の原発計画を拒否しつづけ、原発のない県がつけられた反原発運動の歴史をまとめた一冊。



紀伊半島にはなぜ原発がないのか? 関西電力の原発の歴史

監修 汐見文隆
編集 「脱原発わかやま」編集委員会
ISBN978-4-902269-48-2
寿郎社 定価1500円

